6. 住民参加と地域との連携による川づくり

6.1 地域との連携による川づくりの考え方

(1) 連携による川づくりの背景

川は古くから、漁業や舟運、水利用、行事など地域住民の生活と密着した場として存在していました。社会の産業経済の発展や交通などの社会基盤整備の進捗・高速化に伴い、川を直接的に生活の糧とした産業や舟運などは衰退しつつある一方、川の持つ自然環境の保全や水質改善、川を利用したレジャーなどへの関心は高まりつつあります。地域の個性や活力、歴史・文化が実感できる川づくりのためには、河川管理者だけでなく、川を利用する地域住民が、継続的に川に関心を持ち、主体的に参加することが望まれます。

また、洪水による氾濫に対しては、地域住民が主体的に水防活動を行ってきましたが、堤防やダムなどの整備による洪水被害の減少に伴い地域住民の防災意識の低下が懸念されます。異常洪水など施設整備の能力を上回る洪水に対処するためには河川管理者のみならず、地域住民が普段から防災意識を持つことが不可欠です。

岩木川水系では、洪水や渇水等による被害を軽減し、地域住民が安心して暮らせる社会基盤の整備を図るとともに、自然豊かな環境と河川景観を保全・継承し、地域の個性と活力、「津軽の母」として農業を中心とした津軽平野の骨格を形成してきた岩木川の歴史や文化が実感できる川づくりを住民参加と地域との連携により進めて行きます。

「岩木川に関するアンケート調査(平成18年7月)」では、河川での住民活動に対して高い必要性を認識しているものの、現状は十分な住民活動が行われているとは言えない状況にあります。

このため、地域住民が参加・活動しやすい環境の整備や多くの機会をつくるための取り組みを進めていく必要があります。

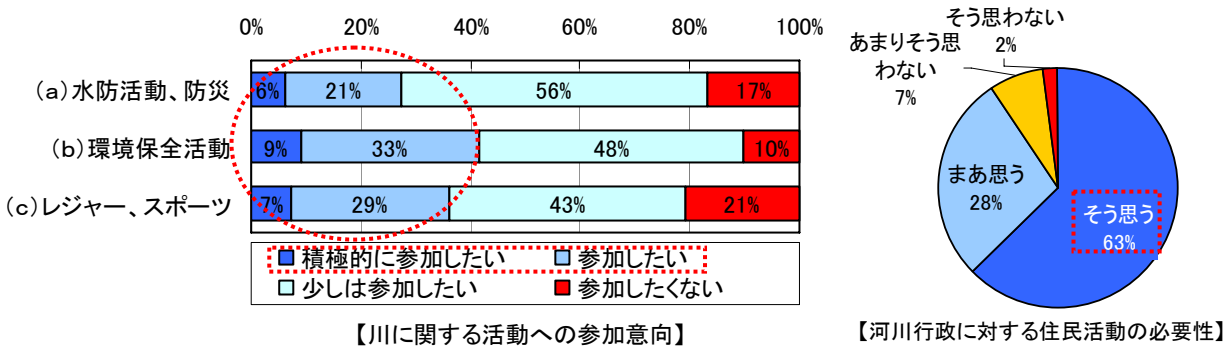

図6-1　岩木川に関するアンケート調査(平成18年7月)結果

(2)岩木川における住民参加と地域連携の考え方

岩木川における住民参加と地域連携を図るためには、地域住民にとってより親しみやすい身近な川からの取り組みが重要であると考えます。地域住民が川づくりに参加しやすい身近な川での活動を基盤とし、それぞれが連携・協働しながら身近な川から地域の川そして岩木川全体へと活動が広がることを目指していきます。

また、住民参加にあたっては地域住民が日頃関心を持っている自然環境や水質・レジャーなど身近で日常生活に関連したことから取り組んでいくことが必要です。このような取り組みを通じて河川に対する関心と意識を高めていくことで、洪水被害の防止や渇水対応など非日常的な事態に対応する住民活動の発展を目指していきます。

また、継続的かつ活発な地域住民の活動をサポートするため、関係する青森県や関係市町村・関係機関などと連携し、施設の維持管理や各種情報の提供等を図っていきます。

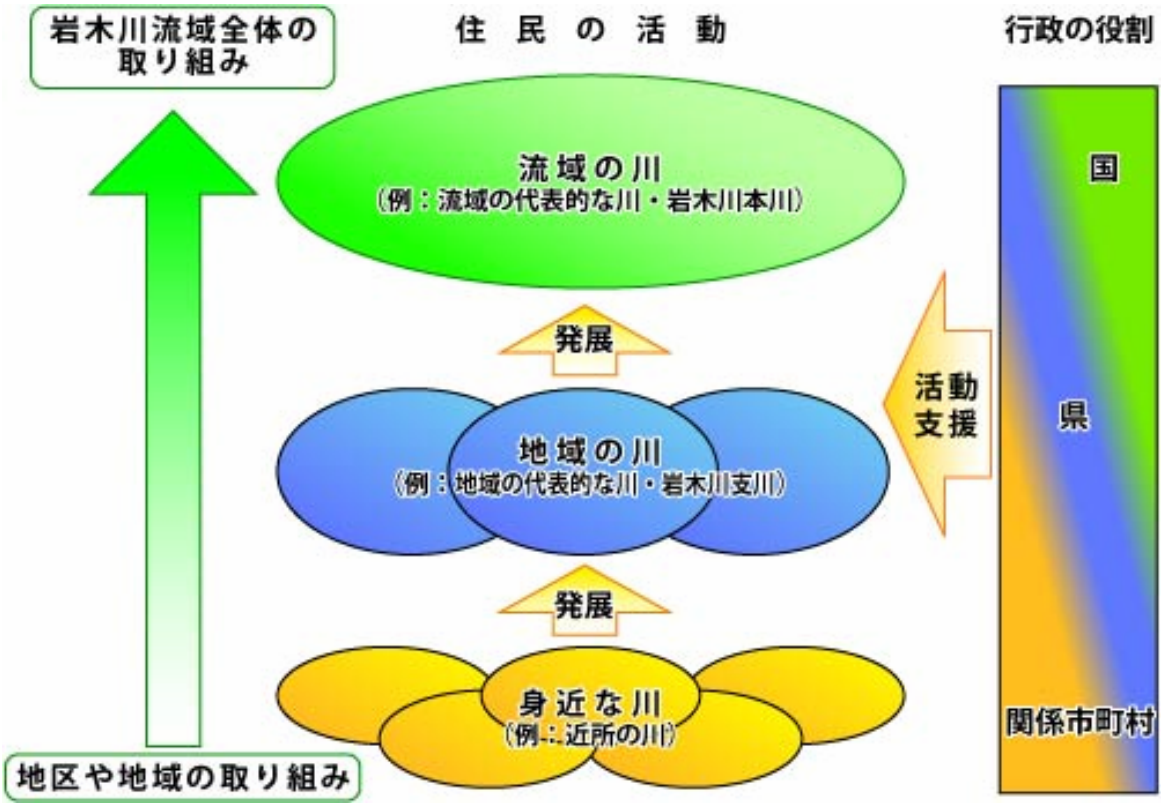

図6-2　住民参加と地域連携概念図

(3) 住民参加と地域連携の進め方

住民参加と地域連携を進めるために、計画(活動の目標設定)、実践、評価(モニタリング)、見直し（フォローアップ)を一連のサイクルとした活動プランを地域と連携して作成します。また、地域活動や行政活動の報告会などを実施し地域住民間や行政と地域間の情報交換を図る取り組みを行います。

地域住民の持続的な活動を支援する体制として、国・県・市町村の行政間が連携し、活動の場や現状や評価などの必要な情報等の提供、広報などの活動支援を行います。

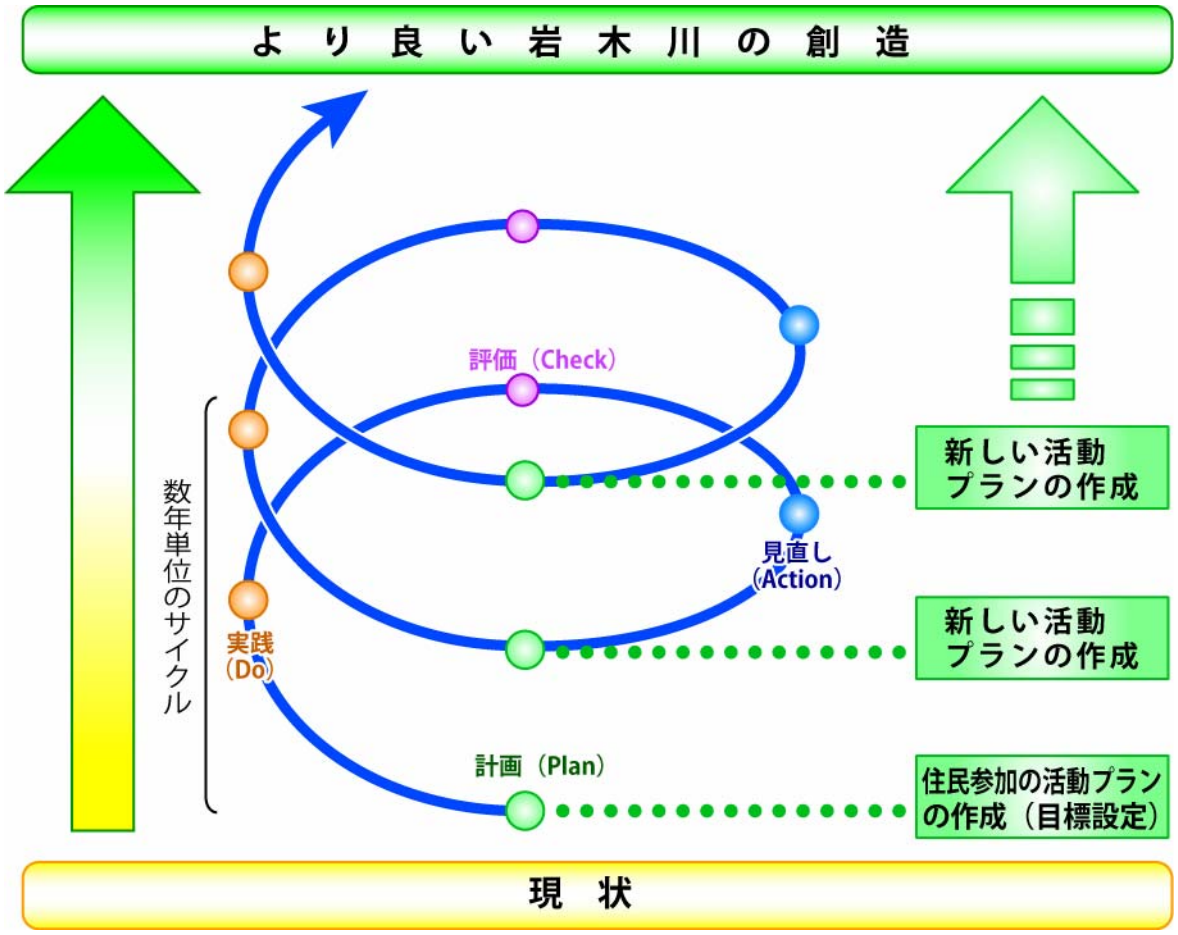

図 6-3　住民参加と地域連携の進め方概念図

6.2 地域の参加と協働を実施する内容

(1) 自然環境に関する内容

①水質の改善

岩木川には合流する支川や水路の水、下水道等を通じて流入する生活雑排水、産業排水など様々な水が流れ込んできます。岩木川の水質を改善していくためには岩木川流域全体での取り組みが必要です。そのため、河川管理者をはじめ下水道事業者などの関係機関や地域住民が連携した流域全体での活動につなげるための情報提供や水質状況のモニタリングを実施します。

②動植物の生息環境の保全

外来種はオオクチバス（ブラックバス）やハリエンジュ（ニセアカシア）、アレチウリなど在来種の生息環境や堤防など河川管理施設の機能に影響するものが多く、外来種の持ち込みを防止するなど河川管理者のみでなく地域住民と連携した取り組みが必要です。

外来種拡大の予防措置として、河川水辺の国勢調査をはじめとした現状把握のための調査や学識経験者及び関係者と連携した検討会・勉強会の開催、外来種を持ち込ませないための広報活動、駆除・密放流対策を必要に応じて行います。

また、NPO 団体や地域活動として実施する外来種の拡大対策等に対して支援していきます。

ＮＰＯと住民参加による外来種ハリエンジュ（ニセアカシア）の除去
（中泊町　岩木川河川敷）

（出典：青森河川国道事務所）

オオセッカ等の繁殖地となっているヨシ原は、ヨシ刈りや火入れなど、ヨシ利用者の活動によって維持されている箇所もあります。

岩木川下流部のヨシは、かやぶき屋根等の材料として利用されていますが、近年ヨシ利用の減少などに伴い、ヨシ利用者によるヨシ原の維持が困難な状況にあります。

そのため、河川管理者をはじめヨシ利用者や地域住民等が連携・協働したヨシ原の保全・維持に向けた取り組みを行います。

［東奥日報　5月25日　20面］

岩木川下流域

守ろう 豊かなヨシ原

児童が自然体験学習

中泊

弘前市常盤野のNPO法人岩木山自然学校（高田敏幸代表）は二十一日、中泊町などで自然体験学習会を開き、参加した青森市浪岡北小学校の四、五年生十四人が、岩木川下流域のヨシ原の重要性を学んだ。

岩木川下流は、ラムサール条約に登録された仏沼（三沢市）と並び、良質のヨシ原が広がるが、一部で外来種のニセアカシアなどが自生、ヨシの生育に影響を与えている。高田代表らの指導を受けた、参加者はのこぎりを使いニセアカシアの幹や枝を切り落とした。ヨシを手みかにしている絶滅危惧（きぐ）種の野鳥オオセッカの鳴き声も響き、参加者は自然の豊かさを実感していた。

さらに、ヨシの茎を巣ンゴ画でマメコバチが授粉に活躍している様子を飼育している農家や、リ見学。高田代表は「ヨシからリンゴまで、一つでも欠けるとバランスが崩れる」と自然と産業のつながりを説明した。

齋藤雅さん（四年）は「マメコバチは刺さないと聞いて、かわいいと感じた。おばあちゃんが農家なので、いろいろ知ることができて良かった」と話していた。（三好陽介）

ヨシ原に生えるニセアカシアを除去する参加者

平成１８年５月２５日
（東奥日報）

③河川美化

岩木川が地域住民の共通財産であるという認識のもとに、河川について理解と関心を高め、良好な河川環境の保全・再生を積極的に推進するため、河川愛護活動等により広く地域住民に理解を深めてもらうための活動を行います。

クリーンアップ活動や河川愛護活動について、市町村等と連携し地域住民やボランティア団体等と協力しながら進める仕組みをつくり、住民参加による河川清掃や河川愛護活動の推進を図ります。

住民参加によるクリーンアップ活動（弘前市）
（出典：青森河川国道事務所）

(2) 河川利用に関する内容

①河川とのふれあいの場の整備、活用、管理

水辺の楽校など河川とのふれあいや環境学習の場の整備を図ります。また、整備にあたっては計画や整備、活用、管理といった各段階から関係市町村や地域住民と連携した取り組みを行います。

また、整備済みの施設については、スポーツ・レクリエーション・環境学習などの利用を促進するため、関係市町村や利用者・地域住民と協働した利活用や維持管理等を行います。

②河川と周辺地域とのネットワーク整備

岩木川の有するレクリエーションや環境学習としての機能を拡大し、河川の周辺地域の存在する歴史・文化・観光等の施設と一体的となったネットワークの整備を県や関係市町村・地域と連携しながら進めます。

(3) 地域と連携した防災対策に関する内容

堤防などが整備途中の段階で施設能力を上回る洪水に対応するためには、河川管理者だけでの対応では不十分であり、関係市町村や水防団さらに地域住民と一体となった対応が必要です。一方、近年は堤防やダムなどの整備による洪水被害の減少に伴い、人々の洪水に対する危機意識の低下が進んでいると言われています。このため、地域住民の防災意識の向上を図るために、地域に対する防災情報の提供などのソフト対策により、被害をできるだけ軽減することが必要です。

岩木川流域における洪水被害をできるだけ軽減するため、関係市町村や地域住民と一体となった危機管理訓練の実施、安全な住民避難や防災意識の向上を図るための洪水ハザードマップの作成支援、インターネットや携帯電話などを活用した防災情報の提供や通報などについて関係市町村と地域住民が一体となった防災体制の整備を図ります。

洪水ハザードマップ（鶴田町）

ロールプレイング方式洪水危機管理訓練

（出典：青森河川国道事務所）

6.3 地域の連携と参加を促進する取り組み

(1)広報活動の推進

近年、地域の河川に対する関心が低い傾向が見られることから、流域一体となった川づくりを行っていくためには、地域住民の川に対する関心を高めていくことが重要です。

そのためには川に関する情報発信とともに広報活動の充実を図る必要があります。

河川利用拠点や防災ステーション等の水辺の施設、一般広報誌やテレビ、インターネットなどのメディアを活用して、河川の計画や水辺のネットワーク、流域に関する情報提供など、広報の充実を図ります。また、地域住民から情報提供を募る窓口を常設し、情報の双方向化を促進します。

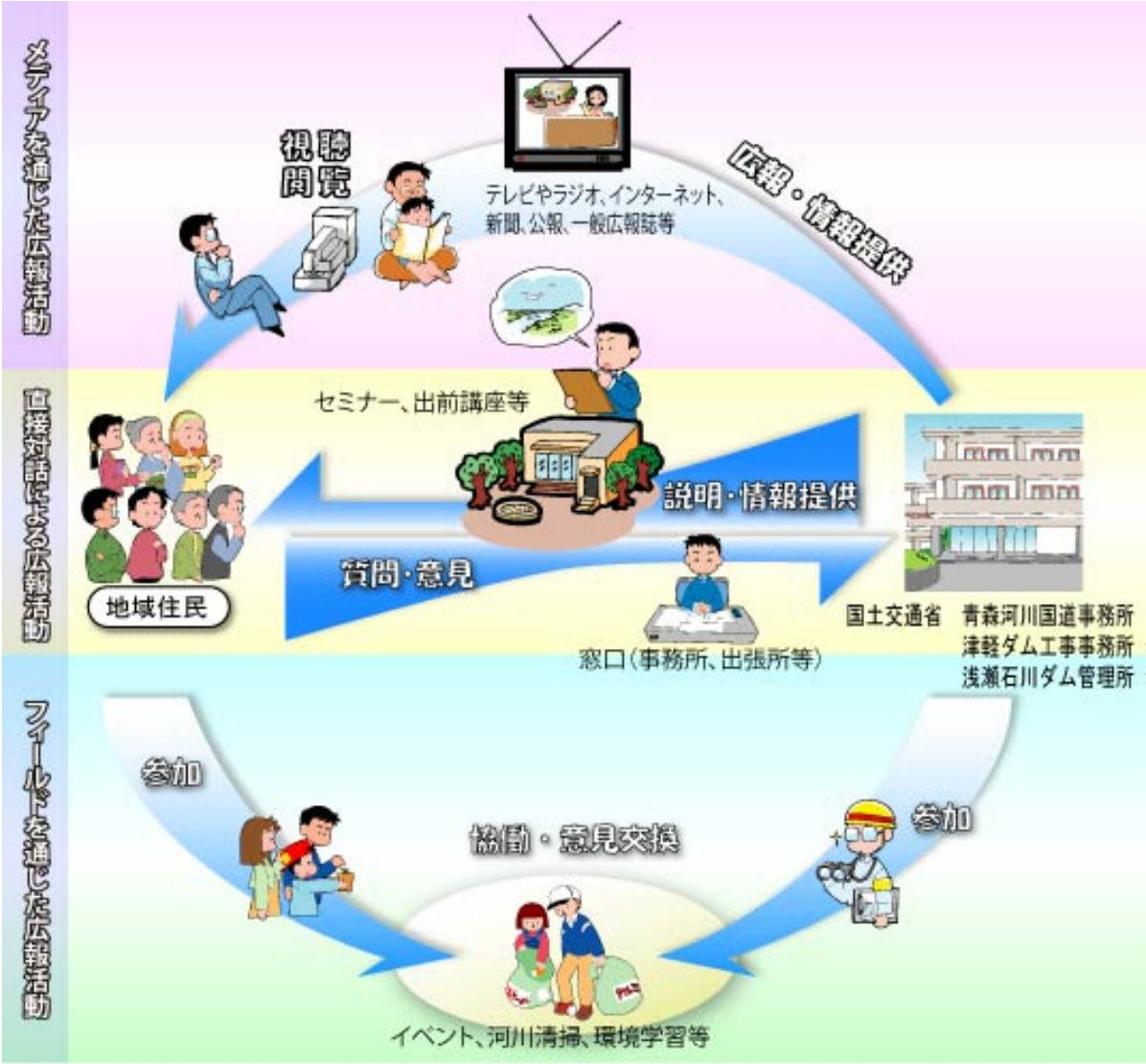

図 6-4　広報活動の推進イメージ

(2) 学習・教育の場の提供

岩木川における住民参加や地域連携を深めるため、自然体験や水質調査など学校教育と連携した環境学習、出前講座などの学習機会、学識経験者による研究フィールドの提供などの取り組みを行います。

岩木川をフィールドとした環境学習は、岩木川の流れが生み出した良好な河川景観を保全し、多様な動植物の生息・生育する豊かな自然環境を次代に引き継ぐためにも重要です。

岩木川流域の河川は、環境教育の場として小中学校の「総合的な学習の時間」などで活用されています。地域の子供たちが、川にふれ、川に学ぶ場としてより一層河川を活用できるように、防災ステーション等での防災学習、水辺での河川利用に関する安全教育、環境教育や川の情報提供等の学習の支援を行います。

また、地域住民も含めて出前講座や公開講座により、川に対する情報を発信するとともに、水防演習等を開催し、過去の洪水被害や洪水発生の仕組みなどを学習する機会を提供します。

さらに「河川生態学術研究会」など、学識経験者による研究に対してフィールドや情報の提供等、地域住民と協力しながら研究の支援を行い、研究成果について地域住民に情報発信を行います。

防災ステーションで行われている環境学習

岩木川こども自然体験学習会

子供たちによる水質調査

洪水についての出前講座

（出典：青森河川国道事務所）

表 6-1　出前講座の例

講座名	講座内容	主な対象
わたしたちの岩木川	くらしと結びついている岩木川、津軽平野の母なる川の姿や災害の歴史、動植物の生態やこれからの環境を考えた川づくりを説明いたします。	一般 （全ての年齢層）
どうして蛇口から水がでるの？！	いつも何気なく飲んでいる水。雨が河川に流れ、そして様々な過程を経て水が飲めるまでを詳しく説明いたします。	小学生
水質のはなし ～きれいな水、きたない水～	岩木川、馬淵川に生息する水生生物を紹介し、河川の水質について解りやすく説明いたします。	小学生
自然体験してみよう ※5月～9月のみ実施	岩木川と平川の合流地点にある「みずべの学習ひろば」はどんなところかを現地にて説明し、あわせて自然観察を行い、岩木川中流部の自然を体験学習いたします。	小・中学生
副読本「海大好き」	海と人々の関わりや海の大切さを、海での遊び方や、生き物、人々の生活などの紹介を通して丁寧に説明いたします。	小学生
ほたるとまちづくり	ほたるは水生生物の中の指標生物であることから、河川環境を良くするための活動やホタルのイベントを通して、地域のコミニュティを復活させ、住民によるまちづくりを説明いたします。	小学5年生以上
災害に強いまちづくり	阪神大震災や近年の水害等から「災害に強い都市」が求められており、地域住民が主体となって、町づくりを実施する時の考え方や進め方を神戸や仙台の事例を使って説明いたします。	中学生以上

平成 19 年 2 月現在

(3) ニーズの把握

アンケート調査や川を利用している人からの幅広い情報を受けるための窓口を設置し、地域からのニーズを把握します。

地域からのニーズについては、川づくりや川の維持管理への反映を図るとともに、地域活動の報告会などの場で情報提供を行います。